KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

茶禮榮

華島風雲二編序

御江戸名めの美之元名の神田
川の橋側ホ筆意を磨く金瓶ぬし
号とゆしてる山ゆる風流をもつて
ゆへ皮流をもつけて意の深き人情
気式ゆるくもどぎの意よりも繪り書けり

東洋文庫
3077
4

御代のゝうれ人情世の中ゆゑ

吉今稀なる寄代の彩筆書ふまされる
出来栄あしと嗤ひ給ふ
此男ひとり有ゝ
あらぬ事ゝ

南仙居松人誌

蟬娟女
國富画
好男子
貞次郎

。幸次郎 継母お政

。お八重

花鳥風月二編卷之上

江戸　狂訓亭主人訂著

○

扨もおかしな幸次郎が身の役となるとの人ども交ふ者伝の文と素ド只聞くと雀のまね紫式部ふ付け今の世俗い更衣と俗が見せ物やする去年の今月い我ぶとして仕立ーふ紋の和紙さそ垢ぶて長つをやるとろひとつ縁の方とえやう藤ふと拘ひて

例月ふい仏ぞ徒母の病気ふてへ来り「お八重さまお帰り
若芋ふーておかのお家ぶ御ー来まーさよトさー出ぞ長
嬢ーさの乳之手ーとぞつとこらく「ヲヤ長様でございます
え長い雛みうどざいます」母「姐お嬢ーうらうれく笑り繋で
お楽ーくトぴんと脊中と打きいもく母い出て行楽
お八重へ上色の粧の利用も惰らーく心せうく計ド母
支の名おふ底付けドとまびまぐーく御ー実
秋の文言いつふ彩ぞ志実の心の長ふ清清ー

涙とちぶーつ嬢り来ふ仕長用り宮島ふ仕分兼
今来ーし内ふ母ーく徒長長へ来ならく付てい徒く動く
見ーしげのりのーく耳ーく人ら見も角も黒方へ来り安産と
涙ーし粧ーとて皆ーく長景方ま又とて千ふ墨一の長
労と博続移ーて人我支の紅中形ーふく下女のおさんが
「ハイお墨ーく御徒でございます」ぶ毛邪お返りと頂く粧ふ
とお徒へ移て長ますと長景と母ーとあ長何の

母のしんと聞ひて入まべ急ぎふか出ッ殺すまつ
てまつ殺す今日中ふもか出ッ殺なりしく年寄の
くせこそやらいとく知せき業ぢらまし千方か母殺より山帳
し紙を殺一章山返しるゆ知りしあるゆへ子妻次
郎より命の矣と仕舞拵母の殺屋へ行き里元より知る
急ふ返度迎のよし付て今日帰ふも参り殺由帳と
乞へば知れよき拵殺ゆへ千由母へ返るとき一緒ところ
ふ拵連させ拵母の心も知りつまべ知の帰りも仕舞支の矣

い母ふも入せ知殺るその後き後と懐中るしつ子屋ふて
ふ〜〜殺前へ参りさまべ側のお久ぶ出迎ひ母の陳屋へ参し
り支より お八重ふ急用ありと呼ふよこせし拵よと
ゆふ妻次郎より手紙参り仏の為殺拵母有殺の
せんと お後の食物もあしやと業ぢらしふよりまづ里
方へ帰ふ妻せて農生つふ帰むより中参まべ一日も
本所ふ参ぶ業ぢらまと支有急ふ呼しよう又お八
へ申も母ふ妻次郎より矣を出て入せ双方

同じ家の又従兄弟
徒母の心の底も知らずして
出て来たりし貞次郎「コヤカ八重さんよくお出でなさる遥ふ
お暇が出されて「ハイ大造今日は特別が宜うて出られ
ましたョ「何ふ云ろと上前屋さがお春さんと義母さんへ
お土産をもつてさかみと出掛へ「ハイ出掛ました私
一の方へ来つさのも同じ事でございますよ「お祖母さん
更じやア形式のみ義母さんどうもお祖母さんへ

お祖母さんへ「更ぞう〜私しも考へると一時のうもか八重の
方ふ行つりでも行けばやアと思と案じらもきてる〜おいらり
遊ふ今日は行ふ考つさのサ「そしてあの春さんの乳母とやらと
仲で遊と言ひなすつさが来て居るよ「イエその乳母いとの
代りやア底積とやうがひどく怒つてどうも急ぎやア上られ
ませんとのまざふ来りい殺しましたよ「更じやアいよく怪
しい次第を報告がお茶の側ふ居ちやア係斗の所ざうう
うざと呼びわへふれ遠方へ「係斗の所なんぞと大造

ちゃうこいを
二ケ爰ゑすとおいひざよ「どうして二ケ爰陽おざよ紙く
しぶぬ
爰羅でもそるやつよ猿沢の金ふ鬼ふ城ふり番茶を
しうけ
紙そうるなどい紙幕おのお使どア「ヨヤ何どろそつと紙ー
まそそヨ「まぐろうふとろつてどうも本底くい海せるいが
どうろ爰ひ立ま〳〵ゑまいうれく「何そうやア紙いどざいま
せん本書さんうふ用〳〵そて世話とあて長うと彩くの
紙ぐあるりのと徒毎ぐ紙のと言つうつて病気でどうも
久
ゆうまれく と呼八百とつきうし長且れの海りまで

紙つて長きやア仕方も安心人のお使決長ます
あく
送りの女小僧を代い夕刻出方より送り海さんと彩り海
して日暮比徒ふ和病の横腹今秋の月海りの紙先
ちゃうこ
来そ病ます〳〵一秋の服ちうべきう母うり徒母へ呼と書
り更より見ふ玉と賛く宮新と賛く紙見と二夕月ます
毎る月お八幡い貴尾徒安産ます金の秋ある男ゑと出が
毎の悔び大方ます秋本底くしせ書り横書ふ紙
まぐい光ぐ言ひ紙の世話ます安心ます張るところふ

咲こそ
そ桜
も
桜八
弥三郎

大吹多

二月七歌をそのゝ翌日高沢源兵衛あいさつ〳〵ふ簿司
一ゝ村せ来り貞次郎ふ逗殺より義庭へ申し対面するふ
ゝて〳〵ゝ式ゝ酒ゝとゝ義ふを妻注郎の子紙箱きつんまび作〳〵平兄
の丹清ふて男ふ青尾能生義一大蓑光ふ四〳〵ゝ分て
ハ梅ゝ兵衛ゝより義ふの梅中ハ宮ふ八重ふ分梅〳〵れ
梅ゝ〳〵ゝ行の方へ参りしゝふ山岸〳〵ゝ作ゝ義ふ
源ゝ金百両ふ離縁状平兄義ふ伴人ふ日星祝ふ
平成一分〳〵ふ義〳〵山ゝ作ゝ行の且兒ふ紙十郎初乳母

ゝ〳〵ゝ丸中分ふ〳〵ふ花芳ふ和ゝ右板成ゝ〳〵ゝ本分
〳〵ゝ和梅表ふ〳〵技師多平支配人ふ後門〳〵ゝ月
義金ゝ式ゝ崇北ふ多迫〳〵入月五〳〵ふ乃津金平白辛
〳〵ゝ山ゝ兄〳〵ゝ〳〵と繰貞次郎ふ仏の門葉〳〵外ふ
大急の組頭或ハ蜂り又眼〳〵西ゝ〳〵く又赤く紙ふ
源ゝ〳〵ふ分ゝ〳〵今成の山紙朱私ふ成ま
ても実ふ汗ふ流ま〳〵ふ且成の石〳〵本金の仏法
〳〵も石ゝ〳〵ゝ〳〵ふ行ゝの長澤ノ義ふ行ゝの稼ふ

ちとまゐせんねをあけ又はいかたでは形遣さんを心病をこれなるがら
ばり長いは帰る冥い穴を塩切されと祈るりの「何さ見ぬ
やが間くぶが義母おくの兄弟ごろる「へこ」そ出発家がこの
自作のおりくろくうる知まりまんざる何もうと人のナーム
見雅いナーて居らまゐませんに何るもの今の為業発角お稼ぎ
えませうダ手位門備の出返金をら稼さとでい解ませうるご
にろ〜ゆうこめ金百為離婚状まで掛分て兒るを文れ除り
り仮の張きい無お八重貞花が始りぬ後ぬ二人が仲

純作の金龍ひきが手を結て訂正まるが及びれが古作の
きくふ成まるり
以一作大繁ハ着衣雅ふあ〜んまれとも金の為ふまりト
のべまるが全く妻次郎ようりの手紙ばく後母と源左衛
ぶユ〜あて偽手をもうる見まで不ふ一人世表向の
文紀人い何ろい知〜ぞ里方ようりかハ手をう波此
ようく文ようる後さ多家司と兒ふを引留きい
る怪〜ふ雅ふ〜ふ又見まで小八重切

方より出て紙を上方より下せり音信の報恩の
手紙を送り後世孫右衛二人が中ふしを恭して双方
とゆふ届けぬと知るべし
扨も貞伝が幸義の血気ふたゝび孫右衛が云ふ所情合の
為業とのゝふ所苟且見近に通人の氏神の情深いの大きさ
のと云つゝ比方が大義捨て方の利の世話しとゆふ所抵当来
ぬとゆひ一ふ行の乳ふ入の女が出来孫右衛の兄と称して張るふ八
幡と女房ふ入て張て一生涯の危険と思ひ一族の内緒ふ

と一味ふ抜き立ちを入れとゝ人彼の長尾のかゝ人由告知抜き
多勢ぢやーき地面地蔵寺待つて居て妻子嬉の別れ涙へ引込つゝりふ
孫右衛の日数ふ永極め自分ゞ情合彼岸千歳亡又のゝ人ゞ千歳
新金六千歳ふ利足を加へ八千歳の年を拵へて本年へかつぎ
とまり世話金の義理金年の情合彼又由別ふ八年後
て懸命ふ結ぶとと長年の下形を表ふ出ふ自分いおーし年の
合をお八重と毎ふ渡ー毎の祝儀絶る色の大長方へ分と
寄せて長代ふ留ーく年五年代乗戻れ来ると

附しが腕前ふ入あるとも是が身の為ふ成ぬハ
のまゝに知らぬとハ知らぬ彦次郎ハ此銭長崎の仕入おふ
為替金少しの面ふかくしと唯今寄る金子の包み家の
名前ハ下もすく耳を揃へし八千両両替家の百両金
ドら息子何成館不の包金を耳を揃へて文蔵せよと不審
つ、久兵衛家の添状を写さ入べし出見家の金子
不成毀見立せられ仕此金子ハ貞次郎枝より此内情の
名よ全の由利息れとまるゆて此返金ふ於ぬ此月ふかけ

なかゞ東の方せずんバ此願ひ叶ハ他の包金の見存付ふ
元より親ハ此場所を立たふお組頭所へ来て此所へ送り状
去りくどと一晩泊りより来りて兒子を文蔵ハ離縁状を
殊く此様を此難く面目と形りも頼み不残此縁
続く御名前こ組頭と縁で京ぶする彦次郎由ハ貞次郎の
なる康様の我おくの見縫とも哀しく見んを加くる成波の
音永のかさひも面白かりしく引かぬ所な八幡宅をとふく
ふ申返し百足屋へやる不極しと見色叉成自己へ為置ふ

氏包金を拾へ〜ら慾ふかけし畜生の妹まで深く
ちひろハせーを吐長ふかーしろ人西熟心何の幼や祖母べき
しまく離婚状を書絶め強母方へきーけるい祈ろ〜め月の
長兄ものー長ろ立流ふ表向筆の可長和とろくの狗蓋
狗荷も海ける又義あめい氏とーまの劉疫へを
引越りの〜犯人を慌らひて表の接人と挿板磨まべり松と
人も知〜表ろろ絶母と孫ろ来ま人ハ名ふ矢妻ふ人
彼の婦ろるお家の表ふの孫ふるさんとそお抱医若の嫁お祈

とりふと表女ふ殺して表ろりーふ仏表ものを大金表ひとろ〜
ふ表人陽表さ表らと表釈さ人ものを表ろれば長表ひと黄ひ更
人ものハ表ハ表次帰の渡表らーく句ろるハ風の使ろふおハ
ろ方へ表へ〜の振舞ろるへド お祈ハ家〜ハ家の祈ふも
知つて表ろふ仏ふ祈ひもふ表ハ表ひ大祈ハ表て朱
やーが黄ハ〜けろく表次帰とお八表の縁が切ると
とやメひつくろるやーが金方ろく仏ろれどお八表の祈
せー男のふて表ふて表ハ表二表ゆて己ろ帰と表祈最不表

らーく弱まく見がるーて月日も生千年の九月ふ重次
郎へとうるとうゆりて已に命を初てえーふ我伴ふも
よく似て生数い母ふく似て流石血筋とて初めて
遠ーふ係面もせず東ふと出抱立ちいとおかしく
ぶ情さも誘り此れる可きらーえとみ事とふり
持て離縁する根性るのる対代のまとちびれ
さがーても生ーてふ忘れぬ祖ふ後ゲちと方より
てもろりー外へも出ず只名代の丸まりとなーて

ある所ふお柳と女房ふるよと母の云ふ忘ふ八年ふ
まけぞ天くーさ年もまりー十七ぞう名あらい
ねど忘もうぞ妹ふ已に所の兵とえるとふくのなが
らもお八年ふ来妹が続りせあて一度遊びーふ恨の
丈ど云ふて絵で見ふて呉ろとお柳と女房ふ云る也
おてうーどと云とも無とも言くとせば上方が海ー
旅ひ神社へも参詣ー而ーの礼とも涙ーと見也
角も残ぞーと云ひ述ー云ひ揃て先貞次郎が

行末と文ふ北面屋敷ハのふも文彼の主婦の別荘も
切賣ふて純子の方へ引迎ぶうと文のこうり見人も
然こそらハるん今ハお八重ふ母と下女お久と二人の女世代
奥の舟宿屋一名と乙切て猿の方へ出ける庵より廣
舟宿小舟屋清ふ人ふ家賃ふて手月と家ふ
せどそ中ふてのお八重の血多尺長ふ全く疲ふ病し
茶屋とる世ーふ人見と表紙拵ふ書ハ主が遺ふる血筋
ふ筋と医師の見立ふ入用厳ハ表紙手外拵ハ

廉法ふ右きふ利ふあり宝蔵の内ハぶッくと潜し出
ける拵ふるまとハ無ハ配の筋ふて又氏ハ不明
なと帝ーの名社会中へまさ風の役ふ最寄家紙屋を
やーふと耳ふ入る心苦しさ猿ふ紙屋の稼とる
とそりのふふ売ふなりと買てがめハ書ハ拵ひ寄純子ふ
引迎ぶ心ふ安く寄さ見ふんと表と貸ーふる尾張屋を
伝来ふる奥の坊さん業ケ計でも伝ふる人千外倍家
の紙波へふ買人の世話と教む猿来ふまハむうーの義

和の袋屋の後家や振と紙ろ知んや文い物ゑき
雲次郎い今日元九月のるの所色ゑ家と乳母ゑ抱うせ
坊を氏へ特意もるの袋ごへい知るるべ丁兒二人ぶ
あやり〳〵 周り向ひ〳〵 簞の糸茅庵「ヤア毎所の且那
幸「お久しうさの「イヤお久しいざんどやァどざいますせん
先心機嫌宜う御年後いおまとめ「イヤ袋でもばのらら
ぶ一幸牛り鶴名の身の上用へ渡ると紙又が文矢部智
上元の又より氏九月御〳〵泊て毎さのす「紙紙たらやう

ゆりまつさぶお月出歌やゝ〳〵お梅こやゝ寄いらうとねト
まつさぶ月氏出歌び出系氏のゆ北熱問ゑんぞご字派ゑ
よりどんなふ比らまるう知まるいとまり兵和て長り生る
「宮ゆう 和の宮ゆう〳〵 猪ゑう〳〵 初ゆ出るゑ宮い「文い紙ゑ
うどざいまんゆゑ氏ゑ氏義長ゆ 幸「和一のよ「ヤア長ざりのと
まゝあもいゑ宮ご栗方御いおえへる根「死ざゆ問ゆさね
「文ゆヤア和のうゑ和あうね長振十らゑ紙ゑぶ世の中「大
遠ふ袋銀するの「文ざゆゆ宮のゆいおゆるゆと

ゐやア宮ゐ　びんとん　夫婦人でゐてらうと「わゐも幸と
せんろ大分ゐびやりが深く眠させ「ハヽア心湯ゐい「きさ
「どうを笑いのと少世張をゐるこいれ「ゐのまゝ意ゐやア黄
いわゝ稽ろうヨ「そりやまさ湯でどざゐます子ろ宮ろ女ゐい今ゐ
わゝ「又ゝ側のとゝ分ろてア今い何の処多ゝ「上れの夫まゝめふ
貞さんのお形出初上尺医若いいつでも藪の内こいふ出方
一向つまゝゐ身の旅行さる別荘の産業とまゐかゝりの
役張ゐ又試表ゐ出ゐ北そゐ奏さいる明さ光南位

不宮ゐまゝんされどうでも自帝の上ゐゐも尚つて張る
とうゝくまゝさ「ハヽア大選ゐ歌息するせゝ奏さいとゐふ
ゐい何の処ざ「まゐ湯さゐゐあまろれ「本湯ゐも湯ゐ
何のと宮ろ一ケゐわゝいんざゐ「ヘヒ本湯ゐも別荘がけで
舞いまゝろ美且旅の自分の産業若ざゐゝさろぞう美
ぞんゞ牛せんゐ意妙ゐ湯ゐの宮ゐ処され「湯ゐがよけ
りやアえてくりんざれ「今の宮ゐゝゐ稽ゐやせんゐ地
その位張の弁象と二階家ふまらくると秋月ふすつと

廊下縁の
ちゃうどさく
と雪
さらし
竹

さいる角ふ隅田川の流と月のやふ云るゆさ「いづと
はなふお高の西へ行うヨ「夫はきぐさへ時ふ今新いらぐ
「る藤といよさんる病と連て歩り祝仁ふるつ
りの「分物まそ如まで お供ごとちひつ一所ふ系治
ゆ久ゆると来ふお八重の方へ参り「は源兵さん「若
ゆ尾さん久「時ふお八重さん久「まさ血のたさ
「夫へどうも困さあのご時ふはれと買といふ
ぐんな見れぶ参まそ「夫い嫁しい実ふおく賞とも

あのゆぶ忠角江戸と思ぐる法と必ずもお祝ろしいが
ゆて参うて下さいまし と縁の相来参ゆふ必ずば
「そんゆ〜あゆさが貞次郎さゆのお義母さん お妹
ふゆ私しも義兵衛の以員ふい祝りまし さぶ初の
とやしも都間逸若の間しの以後参り夫婦以外の以別
藤もさうぞう存知て居りませんのさそも云事で以
度いまし さ六郎河原のお海り居ゆ波一ト月ぶ〜さが
ゆぐ〜実ふ忘まそ 結婚まし さいうまそ母もとひ

出「旅籠あの時こそさお方に孫といふに不忠なものそのときさーうふ梅とび茶ふ付てお揚さぐ「手ふ梅
いまざおて養ま手よ「そういふ中が割ることい何でも
ーさいるふがどぐいませうせ「さと人ふ梅があふも赤ろ脇
ま むどいるまでえあげ「そのおみさんも今日まで
こんとてさ処がとうい口宮貌いやあうりんのおみのめー通
所の長れふ限りそんな情なーでいありせんふ「私が
こんなふ家庭情らまてこのぐ対の因果人ふ恨くふ七

第二へん上十七

けまとるお義母さんやお兄ィさんへ出長労をるむの
せつるさ打角役ー秋るさ人連て往ることうさぐら
さ「大きふぐるさまきーさのさ変ぐくふへ孫付き
とといつてる実法情い男ふむひくされ病ろけされ
お八幡よくいえよ命みてのお稲ぐくー妻次郎ぐる
るいさつもりとぐひ如て本人の兄きの熱七ぐ世話と
もる百ろ面へ打ぐらひよ操と云るも稲ぐるとい此ぐ
ちらもる情の云ふ「衣振を作てい云ひ」ーあくいが

実に此地の異さい妻次郎様でなくいまんが初めて
何ふ奇妙なる同孫作実人さあの品表ゞ〜は此処に一
寸貴殿方場鬼も角も私が猫と丈より無いかぶり
とゝあり　母　物と仏作為落さんも異さい妻次郎と云
こと人は根なあれ〜妻でも妻次郎人養子に成ません
お家も妻次郎と仏妻くに成人庭とお役なさい成処
へいろう是まきません人でもの義理初〜ゞ出
して後がさつ孫やゑ作がかさいと世の人無ふ

の方ひ弾が流さか情けりや仏壇まで〜こんる
よいゑでもみるも悪と只一筋の恋の後を丈て
お八重に孫場おろひ切られ度の不幸さ人も
多きふ手で孫家を異ふと方ひ込いりや切れ
る孫の縄つるがるちふるやせんと母ゞ一下戸人
青猫ふ立て作〜まつて〜る尾さん面明
ゞい私の作くよいに彩逆さんゞ出来ごと丈ま〜
さが悪に逆ま〜ま〜人作さ私〜も二三年

ぶりで今日ゑの所でお目にかゝり度うゝあのお嬢さ
までおろかれこゝろ知りもあやせん「ヤ」あれでぐさじま
そうへけ振るるとそうてゆり意地さんお世話るる
ゐまきまんごとうでけ赤と出なさるゆうお
とうで殺しうとうぐさじまんわくせひゐ為さん法せざ
うよ〻いつものに門をお伺ひ者共吐今引渡のゐ為
ちゐ明れむ心の中実ふ支つと意ふ子供ふ
殺さるとも遂て恨〻の報〻と解て渡げるまで抑の

投と連めるぎうもとに一筋ふゐ為を抑仏と由
新むるべし「何ごとそんなお話をとお掘るさるるい
そ人やせん見れの心意を養地に長うやまろ何ぞも
けるア何の処ろの留遠く支さん分解アやア又ようの
戻られくるアどそ人やせん何ぞ私しろ一ト枕云書て
心何ぞどゆやそうあの繁ひしやア意地さんふまゝ
るのとしのうまでで極用ふと私論の支ようわとえ
合して ちゐ有るとゆそ意屋への切〻和

[illegible]人も[illegible]有あて[illegible]る波一トに和光てのゆまり
[illegible]とられて[illegible]つせへと[illegible]食の[illegible]の味噌漬一下切[illegible]焼
[illegible]て[illegible]奉まつせまつびる[illegible]大きふ[illegible]振びつを砂ふぐ少く
[illegible]の[illegible]の[illegible]どうの[illegible]なかふ[illegible]
[illegible]問ふ[illegible]ちさそうる[illegible]ざ[illegible]行ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]うう[illegible]て[illegible]せへト[illegible]式一[illegible]と[illegible]突[illegible]人[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]とうとびそも〳〵[illegible]酒と[illegible]仕[illegible]振[illegible]て[illegible]
[illegible]月二編[illegible]工[illegible]奉[illegible]